

5月全校集会

校長 西 茂樹

皆さんおはようございます。新年度が始まって1ヶ月半が経ちました。1年生は高校生活に慣れましたか。高校生・明高生としての自覚を持てるようになりましたか。2・3年生には始業式で、“Practice makes perfect.”、思いを実践し継続して力に変えること、自己の成長に結びつけることが大切であると伝えました。思いを実践し継続できていますか。

ところで、皆さんが生きるこれからの社会、それはどんな社会でしょうか。日本の社会を遡ると、縄文時代の「狩猟社会」に始まり、「農業社会」「工業社会」「情報社会」と続きました。これからの社会は「ソサエティ5.0」＝「超スマート社会」と言われています。それは、AIやInternet of Things＝IoTが支配する社会です。

AIが病気を診断しロボットが手術します。

自撮り棒に替わって超小型ドローンが撮影します。

スマホが冷蔵庫の中身を教えてくれます。

これらはすべて、実用化に向けて今研究開発が進められています。こうした近未来を突きつけられると、私達の存在意義値・存在価値は何なのか、ふと立ち止まって考えてしまいます。しかし、よくよく考えると、これらはすべて私達が欲した夢の産物です。見方を変えると、夢を具現化しようとして私達の「知恵」が産み出そうとしているものです。

ここで、質問です。「知恵」とは何ですか。それは、「ものごとを判断し統合する能力」のことです。身近な例を挙げると、例えば文化祭で演劇を企画するとします。そこには正解などありません。観衆に訴えかけ受け入れられるもの、配役、舞台制作、短期間での準備、安価な費用などといったいくつもの条件をクリアしようとして必死に考えます。その時、必要となるのが、作品を発想するための文学・歴史・芸術などの幅広い教養であったり、観衆の反応を予測し人の心を読む力であったり、値段・材料・作りやすさなどを考えながら実現の可能性を探る理数・技術の知識であったり、仲間に目的や意味を説明し協力を取り付けるための表現力であったり、そうした知識や技能を総動員して思考し、判断していきます。それが「知恵」です。

後10年もすれば、今ある仕事の半数以上が無くなり、新たな仕事が必要になると言われています。諸行無常、万物は常に生滅変化して永久不変なものはないとはよく言ったものです。いずれにしても、どんな仕事であれ、そこに求められるのは「知恵」であり、それは不変で普遍であるように思います。

さて、脳には140億個の細胞があると言われています。そのうち、死ぬまでに使うのは10億、天才と言われる人でも20億だそうです。脳にはいくらでも余力があります。どうか、学ぶことを厭わず、苦手科目と決めつけて敬遠せず、貪欲に知識や技能を吸収してそれを総動員し、考えて考えて考え抜く力を身に付け、「知恵」を高めていってほしいと思います。それが、「ソサエティ5.0」＝「超スマート社会」を生き抜く基盤となり、本校の建学の精神「自彊不息」の実践となるはずです。

今後の皆さんの頑張りを大いに期待しています。